



# 乾電池で動くラジオは 災害時の最強ツール

## 東日本大震災で 見直されたラジオ

予兆もなく発生する地震や想定以上の大雨、台風などの自然災害。これらが発生した時、身の回りがどのような状況にあるのか、どのように行動すべきなのか、私たちは正確な情報をいち早く取得することが求められます。

総務省によれば、東日本大震災時の被災地における利用メディア（放送部門）の評価として、震災発生時にはラジオが最も高い値となりました（出典：平成24年情報通信白書）。また、同省は、災害時におけるコミュニケーション放送の特色として、①自治体が発表する停電・断水、救援活動等の情報をリアルタイムできめ細かく提供することが可能、②送信所等の場所や機材、人材が確保されており臨時災害放送局へもスムーズに移行可能であることを挙げています。



市安全安心課では、希望者（市防災行政無線個別受信機の未設置世帯）に、FMかのや緊急割込放送が受信可能な緊急告知FMラジオを貸与しています。平常時には「FMかのや」の放送を聴くことができます。 市安全安心課 TEL 0994-31-1124

オ。テレビやスマートフォンと違い乾電池で動くことができるため、停電時でも長時間使用することができ、携帯性に優れた情報取得ツールです。鹿屋市とFMかのやでは、大規模災害が発生した場合、市役所からFMかのやの放送に割り込み放送することができ、緊急割込放送を採用しています。ラジオは私たちの生活に新しい発見や刺激を与えるだけでなく、非常時の心強い味方にもなってくれます。

## 必要な人に 必要な情報を

ラジオが伝える地域の情報は、災害時以外にも大いに役立ちます。

FMかのやでは、道路の冠水や凍結、通行止めなどの情報がリアルタイムでリスナーから送られると、各関係機関に確認した後に放送します。事前に情報を知ることができた「渋滞を回避することができた」「仕事を支障なく行うことができた」といったメッセージも届いています。

交通状況などをネットで日常的に調べることは難しいですが、いつも流れているラジオが教えてくれると助かるのではないのでしょうか。



## 遠い先だけではなく 身近なものも

多くの人が気軽に参加できるラジオで、大隅の魅力を自分たちで共有・発信していく。有志者がそんな思いを原動力にNPO法人として開局した「おおすみFMネットワーク」は、今年で開局20年目を迎えます。

情報社会の進歩は激しさを増し、20年前とは比べものになりません。私たちはスマートフォンを通して、リアルタイムで地球の裏側のことも知ることができる「精度の高い望遠鏡」を手に入れました。しかし、私たちは根を張って生きている地元のことを、どれだけ知っているのでしょうか。遠い地だけではなく、少し視線を落として、周りや足元を見てみましょう。

FMかのやはその手助けをしてくれます。「ゆんたく」に集まる人々のように「ラジオでつながっていく」かもしれません。そして、そんなラジオを作っていくのはリスナーであり、発信者でもある私たちです。

## スマホでラジオ!?

FMプラブラ アプリがあれば、スマートフォンでもFMかのやが聴けます。災害時の緊急事態にはアプリを開かなくとも情報が通知されます。



## 地元の駅伝生中継!?

FMかのやでは、県下一周市郡対抗駅伝競走大会の様子を現地で生中継しています。今年2月24日(火)に放送予定です。



## 開局20周年企画!?

FMかのやでは、開局20周年企画を行います。詳細はラジオやSNS等で随時告知しますので是非、チェックしてみてください。

